

2016.1.19

「故郷を支援する参議院の会」発足の意味

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は1月19日の火曜日です。本日、参議院の予算委員会で、補正予算の採決がされる予定です。このビデオレターも、昨年から久しぶりの更新となります。

といいますのも、私は今年から参議院の国会対策委員会の委員長代理という要職に就いております。国会が始まると、ずっと国会対策委員会室につめています。また、衆議院と参議院のそれぞれの予算委員会がそれぞれ別にあります。本来でしたら、衆議院が議論している間は、参議院は出席しなくても良いのですが、私は国会対策委員会の委員長代理ですから、衆議院の国会対策委員会に出席し、衆議院の議論も見ておかなければいけないので、四六時中、国会対策委員長室につめています。本日も久々に会館に戻ってきました。中々、ビデオレターを撮る時間もなかったため、更新が滞っていました。お詫び申し上げます。

明日の20日の水曜日に、本会議で予算が通り、また、平成26年度の決算の審査が始まります。そして、決算委員会の後、参議院では、藤井聡先生をお招きして、「故郷を支援する参議院の会」の発足

式を、自民党の参議院議員の殆どの先生方から参加して頂いて行い、その後、藤井先生から講演をして頂くことになっています。

この会の意味は何かと言いますと、安倍総理の下、地方創生が言われております。私は昨年、一昨年と地方をずっと歩き、また、自転車でも回りましたが、現実には地方が本当に疲弊してしまっています。また、高齢化や少子化のために人が居なくなっています。辛うじてお年寄りを中心に残っている地方も、後 20 年、30 年も経つと、人口が激減し、消滅してしまうと言われております。その事を身をもって感じてきました。

これを何とか止めなくてははいけません。そして、止めるためには、東京から地方にもう一度、人口を U ターンさせる必要があります。そのためには仕事があればなりません。そして、仕事を東京から地方に持ってきてそこに住んで頂くと、そこには家族や親戚がおられますから、結婚して子育てをするにも、子供を預かってもらう等の環境がしっかり整っています。ですから、東京よりもずっと産みやすく、育てやすいのです。また、保育所にしても、東京のように待機待ちをする必要もありません。そして、これからの高齢化時代においても、地方では既に高齢者のための福祉施設は出来上がって

おりますから、これから首都圏で子育てや介護の施設を次々と作る必要がなくなります。東京に一極集中で仕事を持ってきて、人口集中をもたらしたことが少子化につながり、地方では足りている施設を東京ではどんどん作らなければいけません。この人口のアンバランスが無駄そのものを作り出しているのです。ですから、地方創生は、財政再建や無駄な投資を減らすためにも非常に大事なことです。

しかし、地方を再建するためには何が必要なのでしょうか。やはりそこには、インフラの設備が非常に大事だと思います。元々、東京は日本で一番インフラ整備が進んでいます。東京の後、大阪圏や九州圏や中京圏でも次々とインフラ整備を進めていく計画になっていました。それを建設省の下で総合開発計画という名前で地域のインフラ整備が進められていましたが、昭和から平成にかけてのバブル、そしてバブルの崩壊、その後の緊縮財政の中で、失われた 20 年ということで、30 年近く公共事業が悪玉論に吊し上げられてしまい、公共事業そのものが出来なくなってしまいました。新幹線がその典型です。かつては昭和 39 年の東京オリンピックに間に合わせるために、東海道新幹線が出来上がりました。そして、その後に山陽新幹

線も出来上がりました。そして、昨年には北陸新幹線の金沢までのルートができましたが、これも本来でしたら、とっくに金沢から大阪までつながっていなければいけませんでした。JRの前の国鉄が事実上破綻し、JR各社に分割し、民営化をしました。その中で、整備新幹線の事業も滞ってきました。そして、整備新幹線は、軌道の部分は、公共事業として国や地方がお金を出して作り、それをJRに貸し付けて回収する仕組みになっていました。公共事業でやっていますが、その公共事業自身が枠を非常に狭められてしまったために、北陸新幹線も30年経ってようやく金沢までできたということになっています。敦賀以西のルートを与党検討委員会で私が委員長として議論をしています。何れにしてもこの事業を行うことは決まっているのですが、同じ事業をするのだったら、30年かけるよりも、10年で作った方が良いに決まっています。現に、東海道新幹線や山陽新幹線は着工から5年で完成したと言われています。それを考えれば、今でもきちんと予算を出せばできるのです。ところが、その予算がしっかりできていません。何故出来ていないのかと言えば、バブルの後の公共事業不要論、悪玉論の中で、どんどん予算が削減されてきたからです。そこで、「故郷を支援する参議院の会」を作っ

て、もう一度見直そうではないか。無駄な公共事業をしろとは言いませんが、例えば新幹線のように、やることが決まっていて、誰もが地域のために大事だと考える新幹線、北陸新幹線だけでなく北海道新幹線や九州新幹線もそうです。こうした採算性がしっかり取れて、国民の誰もが必要と考える事業を5年や10年で前倒しさせて一挙に完成させる仕組みを作るべきだと思います。5年、10年で新幹線が予算をちゃんとつけて完成出来る事を政府が発表すると何が起きるかと言えば、当然、その沿線の地域開発や投資が沢山増えていくのです。政府が出すお金以上に、民間が次々と新しい事業計画を立ててくるでしょう。そして、新幹線の完成に合わせて、様々な投資が進むでしょう。まさに、地方創生になりますし、GDPを600兆円に持ってくるという、大きなアベノミクスの目標にも適います。

問題は、そのための財源ですが、私は建設国債でやるべきであるし、十分出来ると思います。そして、その金額は、今行っている北陸新幹線や北海道新幹線、九州新幹線を全部足しても5兆円もかかりません。おそらく数兆円の規模の話です。それを10年間でその分だけお金を投入すれば、必ず出来ます。ところが、それを出来なくさせている一番の問題点は、プライマリーバランスによって建設国

債も赤字国債も一緒くたにして、一般会計の中で、経常的な収入が見込めないものは予算を認めない仕組みにしてしまっている事が、公共事業を前倒しでやる事を止めてしまい、その結果、地域開発が遅れ、地方と東京の格差が拡大しています。そして、経済もデフレに中々歯止めがかかりにくい仕組みになっています。優れた公共事業をナショナルプロジェクトとして、別会計で分離して建設国債で行うという仕組みを作れば、PB に全く影響を与えずに建設が進み、そして、前倒しで工事ができることで民間投資も進み、GDP に大きく貢献することになります。

アベノミクスを地方から下支えしていくために、明日から我々は、「故郷を支援する参議院の会」を自民党の参議院の有志で作ри、こうしたナショナルプロジェクトをしっかりと行うことによって地域を再生することを総理に提言したいと思っています。

この会については、また報告させて頂きたいと思っています。是非、皆様方にも注目してもらいたいと思います。本年は、とにかく地方創生が大きな柱になりますから、我々も参議院の場で全力で取り組んでいきたいと思っています。本年も宜しくお願い致します。

本日もご覧頂き、ありがとうございました。